

# 2020年版 サトイモ疫病対策

2020年4月  
埼玉県川越農林振興センター

実施時期の目安	実施項目	薬剤名	希釈倍数	散布液量	使用方法	使用時期	本剤使用回数	RACコード	注意事項
植付前	①種芋粗選別								・形状の悪い種や傷、腐敗している箇所のある種芋は廃棄する。
	②種芋水洗浄								・ケミクロンG(5万倍希釈)で使用する水を消毒しておく。 ・水で浮く種芋は廃棄する。 ・表面についた土をよく洗い落とす。 ・洗浄後、よく水を切る。
	③種芋消毒	ベンレートT水和剤20	20倍		1分間浸漬	植付前	1回	F:M03、F:1	・薬液は1日で使い切り、翌日に持ち越さない。 ・当日は、20倍液を予備でつくっておき、継ぎ足しで使用する。
	残渣の処理		(種芋重量の0.4~0.5%)		(粉衣)				・親芋や廃棄する種芋は、穴などに埋設処理する。 ※石灰窒素などを一緒に入れると分解が促進される。
	農薬散布用 通路の設置								・農薬散布の際に葉を傷付けないようにするため、約10 mおきに1畝分空けて通路とする。
5月までに	野良生え芋の処理								・前年度さといも作付ほ場の外縁や、残渣捨て場に、さといもの芽が出てきている場合は、除草剤などで枯らす。
4葉期以降 (6月以降)	薬散	MICペンコゼブ水和剤 または ジーファイン水和剤	500倍 1000倍	100~300 L/10 a 150~500 L/10 a	散布 散布	収穫7日前まで 収穫前日まで	2回以内 -	F:M03 F:NC、F:M01	・梅雨前・後に複数回散布して下さい。 ・MICペンコゼブ水和剤またはジーファイン水和剤のどちらかを散布して下さい。 ・ <b>展着剤スカッシュ</b> を加用して下さい(5~10 ml/散布液10 L)
疫病発生の直後 (7月中旬頃)	薬散①	ダイナモ顆粒水和剤	2000倍	100~300 L/10 a	散布	収穫21日前まで	3回以内	F:21、F:27	・日平均気温25℃以上かつ、まとまった降雨のあとにサトイモ疫病が発生する可能性が高い。 ・初発確認後、可能な限りすぐに散布を行って下さい。 ・ <b>展着剤スカッシュ</b> を加用して下さい(5~10 ml/散布液10 L) ※気象条件によって発生が前後する可能性がある。
7月下旬~8月	薬散②	アミスター20フロアブル	2000倍	100~300 L/10 a	散布	収穫14日前まで	3回以内	F:11	・ローテーションで7~14日おきに散布する。 ・ <b>展着剤スカッシュ</b> を加用して下さい(5~10 ml/散布液10 L)
	薬散③	ダイナモ顆粒水和剤	2000倍	100~300 L/10 a	散布	収穫21日前まで	3回以内	F:21、F:27	
	薬散④	アミスター20フロアブル	2000倍	100~300 L/10 a	散布	収穫14日前まで	3回以内	F:11	
9月	薬散	ジーファイン水和剤	1000倍	150~500 L/10 a	散布	収穫前日まで	-	F:NC、F:M01	・軟腐病対策も兼ねてジーファイン水和剤を散布する。 ・ <b>展着剤スカッシュ</b> を加用して下さい(5~10 ml/散布液10 L)
10月	薬散	ジーファイン水和剤	1000倍	150~500 L/10 a	散布	収穫前日まで	-	F:NC、F:M01	
収穫のあと	残渣の処理								・収穫後の親芋、葉、葉柄などの残渣は、可能な場合はほ場外へ持ち出し、穴に埋めるなどして処理して下さい。 ・穴に捨てるのが困難な場合は、ロータリーで細断し、土壌とよく混和して下さい。 ・石灰窒素や堆肥などを加用すると分解が促進されます。

※表で示したサトイモ疫病の発生時期は目安ですので、実際の発生状況に合わせて、農薬散布を行って下さい。  
 ※農薬の使用にあたっては、必ずラベルに記載された使用方法に従って下さい。  
 ※農薬を使用する際は、飛散防止に努め、使用記録簿をつけましょう。  
 ※掲載した農薬は、2020年3月31日現在の登録情報に基づいています。